

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

福島原発事故

東日本大震災で被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。又、震災により生じた福島原発事故で避難を余儀なくされている方々にもお見舞い申し上げます。今回のシニア懇談会ニュースは懇談会の皆様から寄せられた今回の福島原発事故への思いを掲載いたしました。

News4 月号を福島原発事故特集とする決定には大賛成。触媒学会として、水素爆発を避ける方策を提案できないかと考えます。窒素置換された圧力容器内の水素はもれ込む酸素が相手、外建屋の天井に集まる水素はもとからいる空気酸素が相手、水の放射線分解で生じる水素は量論比酸素が相手となります。それぞれ適切な触媒成分・担体や設置方法があるでしょうけれど、原子力学会放射線損傷部会と連携して、良い案を実現することが期待されます。

ところで、触媒学会から補助をいただいでシニア懇談会が在るのなら、上記特集を生かし、シニアらしい策を上申できればと思います。

「水素発生から爆発まで時間がかかっている。爆発限界にまで水素が溜まる前に、天井など、しかるべきところにPd触媒などを設置・機能させ、端から水に戻す処置はとれなかったのだろうか。有効なら、他の原発では間に合う。」

齊藤泰和

放射線分解で生じた水素を水に戻す触媒については、研究上も実務的にも、厚い

蓄積がある。しかし、外建屋の天井に水素が溜まる事態は想定外。いま、触媒専門家から原子力分野へのアドバイスが強く求められている。

以上は私のもらった、原子力に一生をかけた知人からのメッセージです。触媒学会としての責任で、その求めを受け止めて欲しい。これが私の願いです。

齊藤泰和

触媒屋として何か技術的に提案、提言するというような内容にして公開してはどうかと思うのです。具体的技術のIdeaでなくとも項目でもいい、例えばヨウ素の吸着（除去）、とくに海中のヨウ素の吸着や水素爆発を避ける技術（触媒技術でなくてもいい）等です。前向きな提案、提言ができればいいと思っているのですが。私は水素については、積極的に燃焼させるかそのまま排出させればいいと思っています。（爆発なんてとんでもない！常識的に考えると窒素を注入しているのですから必ず排出せざるを得ないはず。この場合、ヨウ素を吸着（除去）しながら排出させることができないかということです（気

相だから容易?)。

三上 純司

技術情報は正確にかつ迅速に全ての人に伝えられなければならないと思います。技術者は目をつぶって黙っているのではなく事実を正確に解析して人々に伝える義務があると思っています。水素爆発がなぜ起こったのか? 水素爆発で多量の放射性ヨウ素が散乱したことは燃料棒の損傷があった証拠ではないか? 最悪の事態を回避するために炉心の冷却をし続けているが最悪の事態とはどういうことなのか? 風向きを考えない放射性物質の飛散地域はありえないのではないか? Pu 微粒子は重たいから遠くへ飛散しないのか? 海洋汚染はどうなるのか? 事故後 1 ヶ月以上も経ってようやく本当のことが伝わりだしています。私は風評被害が逆の意味で間違った情報として伝わることを恐れています。

室井高城